市政トピックス TOPICS

近くの人と意見交換

藻谷さんの質問に挙手で応える

SDGsバッジを配る高校生スタッフ

結成式

この日、円卓を囲んだのは、来賓の海堀内閣府地方創生推進事務局長、講師の藻谷さん、顧問を務める河野県議、古南真庭市議会議長、幹事を務める、市民、議会、商工業、農業、林業、医療、福祉、環境、教育、行政といった各分野の代表の皆さんです。その発言の一部を紹介します。

趣旨説明

真庭市総合計画審議会
会長 大月隆行さん

SDGsは、いつか誰かがやってくれるものではなく、今我々が真庭でやっていくもの。円卓会議をプラットフォームとして協力、連携していこう。

取り組みと決意表明

真庭農業協同組合
代表理事組合長 矢谷信道さん

瀬戸内海のカキ殻を肥料として利用し、稲作をする循環環境保全型事業をしている。 里海と里山の連携で安心安全な真庭の農業を推進する。

真庭SDGs円卓会議結成大会
元気の続くまちづくり推進

10月27日、久世エスパスセンターで真庭SDGs円卓会議結成大会が開かれました。SDGsは国連で定められた「誰一人取り残さない」を理念とする世界共通目標。会場には真庭SDGsパートナーとして登録されている団体の代表者や高校生たちをはじめとする約400人の参加者が集まりました。藻谷さんの講演の後、円卓会議の2人の顧問と11人の幹事からそれぞれSDGsの取り組みの紹介や決意表明が行われ、高校生幹事の池永さんと藤中さんのあいさつで締めくくられました。

円卓会議は真庭SDGsパートナー制度に登録している市民や企業、団体で構成（円卓会議当日は89団体と15人）

基調講演

(株)日本総合研究所
主席研究員　藻谷浩介さん

SDGsと「里山資本主義」真庭の挑戦

藻谷さんは冒頭、SDGsを「元気が続く世界を作りましょうということ」と説明し、「人口が減っているなどと言われているが、真庭市は外から見ると光輝いている地域に見える」と話を始めました。

実際には殺人事件や自殺が減っているのにそれらが「増えている」と思っている人が多いことなどを例に挙げ、「人間はイメージで物事を考えるが、そのイメージは50年前の事実を親から子へ受け継いでいるだけのものである」とし、今や時代は変わり、「SDGsな世界をつくるために東京である必要はなく、真庭市のような地域にこそチャンスがある」と続けました。

また、藻谷さんは「今ある人工物のうち、千年後の日本に残っているものは、田畑、寺社、水路。鉄筋コンクリートの建造物や道路などは千年の間に10回以上の作り直しが必要だが、木造の建造物は壊れたところだけを取り換えることができる」と説明しました。

さらに、「世界中で困っているのは、水と緑。日本には水も緑もたくさんある。これだけ、水と緑が多い国は少ない」と話し、日本の課題と言われているエネルギー自給についても、「真庭市では、木を燃料にして発電をすることもできている。水と緑があって、エネルギーや食料を自給できることは恵まれている」と力説しました。

取り組みと決意表明

真庭バイオマス発電(株)
社長　中島浩一郎さん

木材を燃料にする発電所は順調に稼働しており、真庭の力を感じる。森林をベースにした仕事はまだまだある。森林を生かしていきたい。

取り組みと決意表明

岡山県中学校長会真庭支部
支部長　杉　徹郎さん

総合的な学習の時間に各地域の特色を生かした学習をしている。また、地元企業の協力で職場体験なども。地域に貢献する生徒を育成する。

閉会あいさつ

勝山高等学校　藤中仁美さん
真庭高等学校　池永智章さん

SDGsの取り組みを加速するためにパートナーシップは欠かせない。将来の世代にツケを回さないため、私たち市民一人一人が行動する。